

ドラに代表される女性を妻とすることで、男性は悲惨さを分かちパートナーを得たわけであり、ともにモイラ内での生の完遂と充実を図ることこそが、人間的幸福に他ならないとヘシオドスは語るのである。

## 第8話 なぜ人を殺してはいけないのか、なぜクジラは殺してもいいのか

柳沢貴司（人間学研究室）

「人を殺してはいけないけれども、動物は殺してもいい」——これはわれわれの社会の常識である。しかしこの常識はそれほど根拠確かなものなのだろうか。

「人を殺してはいけない」ということの意味は何であろうか。実はこの問いに答えるのは、それほど簡単なことではない。何らかの理由を提示したとしても、その理由に対して更にまた「なぜ」と問うことができるし、そうすれば、結局は、確実な根拠など存在しえないことが明らかになるのである。しかしそうは言っても、「人を殺してはいけない」という道徳規則を多くの人は常日頃守っている。実際には殺さないでいる。それはなぜなのであろうか。少なくとも、二つの理由があると思われる。一つには、人間は他者の苦しみに無関心ではられない、ということである。「殺す」ということは他者に痛みをもたらす行為であるが、その痛みは、それに直面した人間——殺人者——にも伝播していく。殺人者もまた痛みを共有せざるをえない。これは殺人者にとっても、もちろん望ましくないことなのである。もう一つの理由は、殺人は自らのアイデンティティを破壊する恐れがある、ということである。道徳は人間のアイデンティティを構成する重要な要素であり、それを破るということ、しかも「殺人」という「取り返しのつかない罪」を犯すことは、アイデンティティの「取り返しのつかない破壊」を招きうるのである。これは、「殺さない理由」の一

つなのである。

さてこのような「殺さない理由」、それは、果たして対人間にしか当てはまらないことなのだろうか。私は決してそうではないと考える。それはまた同時に、対動物に関しても妥当しうるものである。そうであるにもかかわらず、人間と動物の扱いに根本的な差異を設けるとするならば、それはまったく一貫性を欠いたことなのである。

## 第三部 心と体の健康

### 第9話 健康&運動

——運動はなぜ必要か——

江橋博（健康科学研究室）

疾病の発症要因には遺伝的要因、外部環境による要因、そして生活習慣による要因がある。我が国における癌、心臓疾患、脳血管障害の3大死因は「生活習慣病」といわれる疾患で、すべて生活習慣（運動、食生活、喫煙、飲酒、休養）に起因している。

生活習慣病といわれる疾患は、この他に糖尿病、肥満症、高脂血症、高血圧症などたくさんある。これらの疾患は別名「運動不足病」ともいわれ、運動が発症に大きく影響していることが多くの研究で明らかにされている。したがって、生活習慣病の予防や改善には運動習慣は欠かせない重要なポイントである。そこで、本講座では運動不足の恐ろしさを解説し、具体的な運動処方（処方）の作成法についてアドバイスした。

運動不足の状態が長く続くと、脳（ボケやすくなる）、骨（もろくなり骨折しやすくなる）、心臓（狭心症や心筋梗塞になりやすくなる）、血管（詰まりやすくなって動脈硬化になりやすくなる）、筋肉（やせ細り、力がなくなる）などが生じやすくなる。

運動不足を解消するためには、有酸素運動と